



令和7年9月発行 Vol.1
三木市教育委員会
教育・保育課
小中一貫教育推進室

幼保小架け橋だより

各学校園所における交流活動や連絡会に加え、子どもの“学びや育ちのつながり”を視点とした相互理解を深めるとともに、「三木市幼保小架け橋期のカリキュラム」を作成し、さらなる連携・接続を推進していきます。

※「幼保小の架け橋プログラム」とは・・・

「架け橋期」の教育を充実させるためのプログラムです。幼保小の教職員だけでなく、保護者や地域の大人が立場の違いを超えて協力し合い、子ども一人一人の多様性に配慮しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、学びと生活の基盤を培かっていくことを目指します。

※「幼保小架け橋期のカリキュラム」とは・・・

幼児教育施設と小学校の双方の関係者が、共通の視点を持ちながら、学びや育ちの連続性を「見える化」し、相互の教育内容や教育方法の充実を図るための教育・保育指導計画です。

「幼保小架け橋期のカリキュラム検討会議」

小学校長、公立・民間園所長代表、1年生担当教諭、園所の主幹教諭や5歳児担任等、学識者アドバイザーとして兵庫教育大学 鈴木正敏教授(委員長)、計34人の委員で構成しています。

I 開催状況

【第1回全体会】 令和7年5月20日(火) 15時～16時30分

- 参加者・・・検討委員会委員とその他希望する教職員・保育者
- 内容・・・「就学前教育と小学校教育」の相互理解を深めることをテーマに、グループワークと鈴木委員長の講義を実施しました。

【検討委員会】

【第1回】 令和7年7月7日(月) 15時～16時30分

- 1学期の子どもの姿についてグループワークをしながら、情報交換を行い、目指すべき共通の視点や発達段階に応じた指導方法等について、鈴木委員長から助言をいただきました。また、相互参観の視点についての協議も行いました。

●鈴木委員長より助言

“やりたいことを実現するための学習”“言われたことをやる学習にならないように”を共通理解としたい。その基礎には、園所の時期にやりたいことの実現を存分にすることが大切。自分たちで話し合っ決めて力や、大人と交渉しながらやりたいことをしようとする力をつけ、主体的な子どもを育てたい。

カリキュラムの作成に向けて、三木市としての基本的な路線は、自分で決める、自分で探る、みんなで考えよう…等がテーマとして挙げられるのではないかな。

相互参観の実施(7月～9月)

幼児教育施設、小学校、それぞれの相互理解を深めるために、近隣の幼稚園・認定こども園・保育所と小学校・特別支援学校間で、相互参観を実施しました。

小学校の先生 感想



見守り、口出しを我慢することに気付きました。子どもたち同士の関わり合いを大切に、教師は支援者という意識を持つことを改めて感じました。子どもの興味にじっくり向き合う進め方がいいなと思いました。

園では、先生方が中心となって子どもたちに指示を出されているイメージでしたが、実際は、指示や説明が少なくても、子どもたちが主体的に動いており、小学校では、前で喋りすぎていると感じた。これを受けて、参観では子どもたちが主体的に動けるように、支援など工夫したものをみていただいた。子ども同士の話し合いが活発にでき、子どもに任せるのも大切だと感じた。

声掛けや手立てによって、子どもたちが感じ、考え、動いていたことが見ていて心地よかった。子どもたち同士を繋ぐ声掛けや手立てが、園の先生は流石だと思った。

話し合い活動を参観させていただき、子どもたちが困ったときには、先生が「じゃあどうする？」と問い返され、子どもたちに粘り強く考えさせておられるのが印象的でした。すぐに答えを押し付けるのではなく、また子どもの関心を重視したグループ分けで意欲をかきたてられていることは、参考になりました。

小学校は、単元があり、時間内に学びに繋げなければいけないと思っていましたが、先生の柔軟なアイデアと、確かなビジョンを知ることができました。また、学ぼうとする意欲を引き出したり、児童が手応えを感じたりできるようにするための工夫が至る所でされていて、勉強になりました。

こども園で育てておくべき力は何かということが、自分なりに考える事ができました。読み書きなどではなく(もちろん必要)、自分の思いを伝える力や、人の話を聞く力、自分で考える力をあそびの中で育てていきたいと思いました。

園所の先生 感想



友達の話聞き、グループ内の意見をまとめている姿に驚いた。自分の発言が皆に共感してもらったり、友達と意見を交わしたりする姿はいきいきとして楽しそうだった。子ども主体となって、1つの目的に向かって進めていく姿が見られた。

小学校の先生の言葉が優しい。小学生の気づきは幅広く知識的。小学校の ICT 化が進んでいる。園時代は、保育者に助けられながらじっくりと遊びこむことが大事。様々な経験、発見、伝え合い、好きなものを見つけることが、この先の土台になるのかなと思った。

お互いの教育・保育現場を参観し、子どもの学びの姿・支援の方法・環境等について、共通の視点から観察と記録を行いました。また、事後協議として記録した内容の意見交換をすることで、教育の質を高めるための相互理解と連携を深める「一歩」となりました。



教室に絵本コーナー(小学校)



自由に使える豊富な教材(認定こども園)

※今後の検討の内容等について、「幼保小架け橋だより」にてお伝えいたします。